

## グループホーム暖らん 令和5年度第3回運営推進会議 要旨

日時：令和5年9月27日（水曜） 15時00分～15時30分

出席者（敬称を略させていただきます）

地域委員、民生児童委員、出雲市高齢者福祉課、出雲市高齢者あんしん支援センター

理事長、暖らん管理者 以上6名

### 1. 利用状況（9月27日現在）を下記の通り報告した。

現入居者 9名（定員9名）

#### ① 年齢別

平均91歳

	男	女
80歳代	0	2
90歳代	1	6

#### ② 要介護度別

平均要介護度 2.7

	男	女
要介護1	0	1
要介護2	1	2
要介護3	0	4
要介護4	0	0
要介護5	0	1

利用待機者 7名

### 2. 7月下旬からの行事、活動などを「暖らん便り」no.24を参照しながら報告した

### 3. 9月7日（木曜）職員の新型コロナウイルス感染確認とその後の経緯について報告した

7日朝、職員1名から夜間に症状があり、検査で感染が確認されたと連絡がある。当該職員は前日に勤務し、入浴やその他介助に当たった。

BCPを発動。全職員、理事長に連絡し、対応を協議・連絡する。訪問看護師にも報告し相談する。利用者、職員は毎朝検温と抗原検査を実施（利用者は夜も検温）した。

利用者はできるだけ居室で過ごしてもらう。可能な人は食事も居室で食べてもらう。それが困難な人はリビングで間隔を空け、少人数で食事など行う。入浴は原則として清拭とした。

職員は介護場面に応じてフェイスシールド、ゴーグル、ガウンなどを着用した。換気、消毒を頻回に行った。

発症から5日目となる11日（月曜）まで職員、利用者とも抗原検査は陰性で発熱等の体調の異常は見られなかった。利用者の居室対応は解除した。念のため、12日（水曜）まで職員の毎日の検温と抗原検査は実施した。

12日夕方でBCPによる対応は終了した。

■利用者には原則として部屋で過ごしてもらうようお願いしたが、それが理解や記憶の障がいにより

困難な利用者もあり、共有スペースで過ごす人もあった。その場合、利用者同士距離をとったり、換気や消毒で対応した。

■居室で過ごすことによるストレスからと思われる言動（「家に帰りたい」「何故部屋から出られないのか」などの訴え）などが見られた。

■BCPでは利用者の感染発生時、にこにこルームをレッドゾーン、その小玄関をイエローゾーンとして感染者を隔離することとしているが、上記のように利用者によっては計画通りの隔離が容易でない場合もあることがわかった。

以上の経緯と感染者の隔離（の困難）についてご意見やアドバイスをお聞きした。

委員：感染者が発生したあるグループホームでは隔離は実質不可能とのことで、利用者区域をレッドゾーン、事務室をグリーンゾーンとして、イエローゾーンは儲けないという対応を行なったところがある。

委員：困難とは言っても、原則として隔離するべきだろう。

暖らん：基本は隔離することとして、感染した利用者、人数によって対応を考えてゆく。休む職員が出るので、その補充をどうするかも難しい。理事長自身が対応に入った。

#### 4. 研修

8月25日（金）職員会 「虐待、不適切ケアをなくすために」

9月22日（金）職員会 「ケアと支援の基本方針、職場のマナー等」

8月に出雲市主催「業務継続計画」作成支援講座1回目を受講した（2回目は10月）。

#### 5. 実習等の受け入れ

- ・トリニティ福祉専門学校の介護実習

9月5日～8日、2名の学生が実習を行った

- ・出雲医療看護専門学校の看護学生の実習 9月22日15時～16時

新型コロナ感染により学生の施設での臨地実習が困難となり、特養、老健、グループホームからそれぞれ1事業所がオンライン（ZOOM）で施設紹介を行うこととなる。

グループホームについては、暖らんが1時間事業所の利用者や支援内容についてスライドショー（テキスト、写真、動画）で説明を行った。理事長も同席し、最後は学生からの質問に応えた。

9月29日、10月6日にも同様の方法で別の学生グループに対して実施の予定。

- ・中学校の職場体験学習

9月下旬に受ける方向で調整してきたが、9月に入ってから新型コロナウイルス感染症の流行状況から、受け入れを辞退させてもらいたい旨を9月上旬に中学校に連絡して了解を得た。

委員：人材確保について。実習を受けることで、それが人材の確保につながった例はあるか。

暖らん：今までのところ、そうした事例はない。

委員：職員は充足しているか。産休の職員が2名いるとのことだったが、その補充に期限付きの雇用での求人しているか。

暖らん：人数的にはギリギリというところ。産休の補充に期限付きの求人はしていない。期限のない

求人を行なっている。産休が明ければ、手厚い配置ができるようになると考えている。

以上（文責 山崎）